

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）策定委員会（第2回）
事務局（担当課）		文化商工部 図書館課
開 催 日 時		平成27年11月2日（月） 午前10時～10時55分
開 催 場 所		会議室（中央図書館 5階）
議 題		議題1 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)の骨格について 2 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)の構成案について 3 各課施策(案)について
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	委員長 栗原 章 文化商工部長 副委員長 天貝 勝己 教育委員会事務局教育部長 委 員 小澤 弘一 文化商工部文化デザイン課 " 古澤三千代 子ども家庭部子ども課長（代理） " 猪飼 敏夫 子ども家庭部子育て支援課長 " 橋爪 力 子ども家庭部保育園課長 " 井上 一 教育委員会事務局教育部学務課長 " 鈴木 裕美 池袋幼稚園長 " 高橋 重樹 千川中学校 " 山根 齋 文化商工部図書館課長
	事 務 局	図書館課 元川 正子 経営担当係長（児童・YA） " 松山 操 中央図書館 図書館専門員 " 佐藤 真理子 中央図書館 図書館奉仕員

審 議 経 過

1. 議事内容

議題1 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)の骨格について

資料2-1のとおり(説明:図書館課長)

議題2 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)の構成案について

資料2-2のとおり(説明:図書館課長)

議題3 各課施策(案)について

資料2-3-1、資料2-3-2のとおり(説明:事務局元川)

今後のスケジュールについて

資料2-4(説明:事務局元川)

2. 審議内容(質疑応答)

議題1

委員長:数値目標案の目標値はまだ動かしても構わないのか。

委員:はい。

委員長:目標を5%でよいのか。数値目標3の「1日の平均読書時間」0分の割合を1/3減というの、1/3にするということか。

委員:2/3ぐらいにするということです。

委員長:つまり高校生は0分の割合を37.4%から1/3減らすということは、10%くらい減らして0の人を20%前後に減らす。そのことも含めて、指数として他の物がよいのかご意見をいただきたい。

委員:欲を言えば、1/2が望ましい。調査結果をみると平均読書冊数0冊の高校生が16.3%、1日の平均読書時間0分の子が37.4%で、高校生も答え方がわかっていなくて、この2~3日読んでいないから0と回答しているのかと思う。

副委員長:子ども読書活動推進計画の指標というのが子どもの図書貸出冊数になっているが、各学校の図書館も充実してきていて、調べ学習で利用するのは除くとして、読書する時間に学校図書館で借りて家庭で読書している状況の時間も含まれるのかなど。そのような部分を今回の指標の中には入れてないが、子ども読書活動という計画自体は学校図書館の位置づけはどういうところにあるのか。

委員:当然それも含めます。ただ指標として選ぶ時に、学校図書館の他に区民ひろばや保育園などで本を読んだり、それらをすべて含むと指標では捉えにくい。

委員長:学校図書館で借りた冊数は、経年の統計とかは出ているのか。

委員:データベース化してからは、学校で貸出した冊数の統計が取れている。

委員長:家に持ち帰っているのか。

委員:持ち帰っているかどうかは。ただ貸出期間があるので持ち帰っていると思う。

委員長：学校で一番身近なところで授業ではなく、好きな本を家に持ち帰ってというところのデータが出ているなら、出した方がよい。

委員：確かに学校図書館の本の貸出はポイントとして大きい。

委員長：事務局で検討して。

委員：2と3の指標はダブリますかね。

委員長：一次、二次でもこれを使っているのか。

委員：数値目標は全然違う。一次、二次と区立図書館の子どもの利用登録率がひとつ。0～6歳は親が登録した数だと思う。もうひとつは、読書の好きな児童・生徒の割合。漠然として指標としてどうかと。3つ目は、普段の読書量、週2～3回以上の読書の割合。これは読書時間と重なるようなところがあるが、その3つです。

委員長：他に何か指標があるか。

委員：指標の1、2は全体、3はYA。

委員長：まだ決まらないが、とりあえず仮置きしておいて、これにプラス学校図書館のデータを入れ込む形で、他にこれも是非というのがあればご指摘をいただくことで。

議題2

副委員長：4章で初めて就学前の子どもたちの施策が出てくるが、就学前の子どもたちの本に親しんでいる状況というのを、現状という部分でどこかに載せるべき。

委員：載せるとすると第2章の3 第二次計画の施策と進捗状況かと思う。

副委員長：4章の計画事業の中で、就学前の保育園、幼稚園の施策をどの辺まで踏み込んで書くのか、書くうえで現状をどう把握しているのか。

委員長：第2章の「2 子どもの読書活動の実態調査」でわかりうる実態を書き込んでおかないと流れていかない。

委員長：指標には質問のところはちゃんと網羅されているのか。

事務局：実態調査は、小学校・中学校・高校生を対象として実施し、就学前の子どもの調査は実施していない。

委員長：実施していないということは、就学前の現状分析ができないということか。

委員：二次計画でカバーしているので、進捗を管理して二次計画でおさえている。今、保育園、幼稚園がどのようなことをやって、どこまで行っているのかはおさえられている。

委員長：うちが事業をしている実態ということ。ただ、幼稚園、保育園にアンケートを取るわけにもいかない。親が書かざるを得ない。第2章2に実態調査以外のところで今の子どもたちの読書環境の現状として、把握しているのはこんな状況ですとわかる範囲で書き込んでおかないとその後へ流れていかない。

委員：それでは、第2章3の第二次計画の施策と進捗状況で、改めて乳幼児の施策と現状を書くようにする。それを書くのが第二章だと思っていたので、この中で書き込む。

副委員長：区立幼稚園の現状はどうですか。

委員：重点分野の家庭における読書環境充実の支援という点で、一週間に一度、幼稚園にある本を親子に2冊ずつ貸している実態がある。

副委員長：図書館みたいには細かく分析は難しいと思うが、把握できる部分で現状はどうなのかは必要。

委員長：区立幼稚園のアンケートは難しいが、現状はどうなのか事務局で工夫してください。

委員：子どもの読書活動実態調査で、本を何分、何冊読んでいるか調査しているが、児童あるいは生徒の生活パターンの調査をしているのか。

委員：放課後何をしているか、その行動を分けて何分、何%、その中で読書は何分と分析をしている。

委員：委員の方々の育った頃とあきらかに環境が違い、家の居間にテレビが一台あって、6時か7時に家事専念のお母さんがいて食事ができていたのが、母親が共働きで8時9時にならないと食事ができない、あるいは習い事があって本を読む時間があれば早く寝なさいという環境なのかもしれない。そういうことを踏まえたうえで、やみくもに時間を増やせるのか。限られた時間の中でどう充実したり、将来に結びつくような読書意欲につながるような本が読めるかが大事だと思う。家庭が大事というが、昔みたいに5時前にクラブが終わって家に帰るという時間が、学童や塾へ行ったり家庭での生活時間が短くなっていく中で、例えば学童の中や学校の休憩時間にどれだけ本を読むのが重要。そういう意味で家庭を重点にしてよいのか、家庭に代わるものとして充実する部分があるのかもしれない。家庭とは別に将来を見越した家庭環境だとか生活環境を踏まえたうえでどうでしょうか。それでも家庭で充実なのか。1時間読書活動を取りましょうという時間が子どもにあるのか。色々なパターンもありうるのかと、そんな中で学校や学童の持つ意味は大きい。

委員長：1に戻って、平均読書時間だとか冊数のところで、学校の授業を除いた時間になっている。小学校、中学校で朝読書が行われているが、なぜそれが必要になってきたのか。家に帰ったら本を読んでいるよりも、塾の宿題をやらなければならない中学生もいるだろうし、そんなところで、今道徳も親が教えられず学校にお願いしますという体質が多い中で、たぶん学校の読書の時間に頼りたい保護者が多いような。子どもたちが今何をやっているのか、そこから読書だけのデータを引き抜くのではなくて、こういう状況の中でこの計画が進むという、子どもたちの生活実態をデータとして持っているのであればきちんと載せるよ

うにしていきたい。

副委員長：家に帰って読書できる環境にあるのか。家に帰って家庭で学習の準備ができている子どもできていない子もいる。家庭学習が重要な課題になっている。家庭教育推進が重要視されている。はたして家に帰って読書ができる環境にあるのか、その実態を踏まえていないと施策が有効に活用しない。そういう状況を計画の中に載せていく必要がある。

委員：良質な文書を読むとなると、活字になったペーパーでなくてもタブレットを使って我々の子どもの頃より読んでいる可能性がある。スマホで情報が入って、言葉による情報だったりするので、例えば読書と言っていいのか、活字の学習という点でそれをどう位置付けてるのが今後大きな課題になってくるかもしれない。

委員長：図書館経営協議会の話で、読書かスマホかどちらかを読書ということではないと話があった。調査は、読書時間とその他の行動として調査した。どのようなことをやっていてその中で読書の時間がどのくらい。メール、ライン、ゲーム、インターネット、勉強、宿題、スポーツをするなど。それが学年が上がれば上がってきている。書籍・絵本を読まない理由、高校生の第1位は他の事で忙しくて本を読む期間がない。それは部活動、塾、習い事で、そういうことを踏まえなければいけない。

委員長：保護者のアンケートでも家庭の中の読書が一番大事と言っている。その先を聞いているのか。皆さんのご家庭でどういう取り組みをされているのかも聞いているのか。

委員：聞いていない。

委員長：本当は聞いていただくとよい。

委員：読書活動推進計画の家庭における重点分野は、家庭での読書のインセンティブ、施策、動機づけを働きかけられればと思う。家庭で何時間も本を読まなければという話ではない。

委員長：家庭でどうするのかは、行政として働きかけが一番むずかしい。家庭それぞれの環境、保護者の方の意識というところで、重点であるが行政としてどういう働きかけができて、それが数値として成果が出てくるだけのものができるのかどうか。

委員：目的自体がすばらしい本に出会う。本、蔵書ということになるので、今いろいろな媒体で情報を得ていて、活字として見ていてその中には文章的におかしくないものも多くある。蔵書としてすばらしいことがあると気づいて。そちらの方に向かう。今学校では学習センターとってインターネットから色々な本を調べる。それと同時に蔵書を使ってあわせて調べていくという方向に向かっている。時間も少ない中で健康を害わず時間を割いていけるのか難しい問題だと思う。

委員長：図書館経営協議会の委員の発言で、活字、スマホの情報の中で、一つのいい作品を読むことで、その人の想像力や感性に触れることが大事。本を通読して自分の

中でどう感じていくかが読書の基本だとおっしゃっていた。

委員：家庭の調査の中で、親が本を紹介する、手に入れる算段などの働きかけがあります。

委員長：親に紹介された記憶はない。

委員：小さい子どもがどれだけ本やおはなしの世界に感情移入できるのかが大事。保育園でもそういう本を紹介しているが、家庭でどれだけやっているかは把握できない。保育園だよりで紹介したり、保育園の図書コーナーで紹介しているが、どれだけ家庭に波及して子どもたちに伝わっているのかはわからない。

委員長：いろいろ良いご意見、ご指摘をいただいたので事務局でまとめてください。

議題 3

委員長：資料 2-3-1、2-3-2 は、これは持ち帰ってご意見をいただいてということにします。

委員：資料 2-4 の補足です。年度内策定を予定していたが、年度内となると 4 定にはほぼできあがり区議会に報告する予定だったが、スケジュールがきつかったのですらした。最終的には来年 2 定に報告したいと思っている。この中の 2 月上旬の教育委員会と区議会定例会でパブリックコメント提示と記載してあるが、パブリックコメントをしますという報告です。

委員長：計画そのものは今年度末ということだが、来年度当初にできてなくてはいけないというものではないので、事務局と相談して、無理せず、きちんと手続きを踏んで議会、パブリックコメント、教育委員会等の日程があるので、無理のない形でひかせていただいたスケジュールです。

委員：11月18日作業部会で形としてまとめたものを出したい。来週中に今日提示した内容にご意見があれば事務局までお願いしたい。それを踏まえて作りたい。

委員長：第 2 回の策定委員会を閉じさせていただきます。

提出された資料等	配付資料 2-1 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)の骨格について 2-2 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)の構成案について 2-3-1 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)各課の事業計画案 2-3-2 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)施策別事業案 2-4 豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)策定スケジュール
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------